

# 生活保護関係全国係長会議資料

令和2年3月5日（木）

社会・援護局 保護課 自立推進・指導監査室

# 目 次

## 重点事項

第1 令和2年度における生活保護法施行事務監査について	1
1 管内実施機関に対する監査の実施に当たって	1
2 監査の実施に際しての基本的な考え方	4
3 令和2年度監査の重点事項について	5
4 生活保護法施行事務監査事項について	9
5 不正受給事案や不正等事案に係る報告の徹底について	13
第2 保護施設に対する指導監査について	20
1 入所者の自立支援に重点をおいた指導監査の実施について	20
2 保護施設の運営に係る適正実施の確保について	20
3 事件・事故に係る報告の徹底について	22
第3 令和2年度生活保護指導監査委託費等について	22
1 生活保護指導監査委託費について	22
2 都道府県等による生活保護業務支援事業について	22

## 連絡事項

1 国が実施する監査計画について	24
2 監査対象実施機関の選定について	24
3 令和2年度監査の実施に当たってのヒアリングについて	24
4 生活保護指導職員会議について	25
5 査察指導機能の充実強化を目的とした研修会等の開催について	25

# 重 点 事 项

# 第 1 令和 2 年度における生活保護法施行事務監査について

## 1 管内実施機関に対する監査の実施に当たって

生活保護法施行事務監査（以下「監査」という。）の実施に当たっては、管内実施機関の事務の執行又は会計処理の状況を検査し、その適否のみを調査する等の監査ではなく、管内実施機関において更に生活保護法（以下「法」という。）施行事務がより適正かつ効率的に運営されるよう積極的に援助・指導をする建設的な監査を行うことが必要である。

本年度の国の監査結果からは、これまで本庁に対して求めてきた、継続した課題を抱える実施機関への効率的・効果的な監査について、改善が図られてきている。

一方で、一部の都道府県・政令指定都市本庁（以下「本庁」という。）において、個別ケースの取扱いの適否を課題として指摘するに止まり、実施機関における組織的運営管理の状況や査察指導の状況等、その課題や問題点が生じている要因にかかる検証を十分に行い、具体的な改善方策を示すといった実効性ある指導が不十分である状況も認められている。

管内実施機関において生活保護業務が適正に運営されるためには、本庁職員が監査の意義を十分に認識した上で、実施機関の個々の課題に対する指導・援助はもとより、根本的な課題の解消に向けた効果的な指導を継続して行うことが重要であるので、引き続き、適切な監査体制の維持及び監査内容の充実強化への特段のご配意をお願いする。

### (1) 管内実施機関に対する指導の徹底について

監査に当たっては、管内実施機関の問題点の把握、それを踏まえた的確な監査の実施、当該実施機関における是正改善状況の確認に基づく更なる指導といった一連の事務が確実に実施される必要がある。

そのためには、実施機関毎に、国及び本庁の監査において明らかになった課題や問題点の内容及び是正改善状況に加え、保護動向や保護に関する地域情報、当該実施機関に対する本庁の所見や評価、次回監査における留意点や確認事項等、継続した指導

に必要となる事項を盛り込んだ「福祉事務所指導台帳」を作成し、活用することが重要である。

また、管内実施機関が抱える課題を整理し、当該課題の是正改善に向けた実効性のある指導を行うために、本庁としての監査の重点事項を設定し、その上で、各実施機関の規模や課題等に応じた日数・班編制による効果的な監査を実施するための監査実施計画を策定し、当該計画に基づき的確な指導監査を実施する必要がある。

については、監査の実施に当たっては、次のとおり組織的かつ継続的に実施するようお願いする。

- ① 監査実施前、生活保護主管課長の参画の下、事前検討を実施し、「福祉事務所指導台帳」等を活用して組織として監査対象実施機関における課題や問題点を具体的に把握する。
- ② 組織運営ヒアリング、事項別検討及びケース検討においては、関係資料等の確認を的確に実施し、適否を調査するだけでなく、当該実施機関が抱える課題や問題点とその要因を明らかにする。
- ③ 監査終了後、生活保護主管課長の参画の下、事後検討を実施し、監査結果を取りまとめた事後検討資料を組織として総合的に検討・分析した上で、具体的改善方策を整理・検討し、速やかに監査結果通知を発出する。
- ④ 実施機関から提出された是正改善報告については、問題解決に向けた具体的な取組を内容とする改善計画及び改善結果を提出させ、内容が不十分又は不適切であると認められる場合にあつては、再提出や追加報告を求めるなど、管内実施機関において実効性のある是正改善が講じられるよう指導する。

なお、監査をはじめ管内実施機関に対する指導に当たっては、本庁の生活保護主管課長のリーダーシップが不可欠であり、特に、問題を有する実施機関や大規模実施機関等に対しては、主管課長自らが実地に指導監査に参画することにより、当該実施機関における生活保護実施状況の実態を把握するとともに、実施機関の幹部職員に対して必要な指導を直接的に行うことが重要である。

さらに、管内実施機関に対して適切な指導を実施するため、本庁の指導監査及び研修等に係る実施体制の整備が必要かつ重要であるので、本庁の生活保護主管課長においては、このような点についても配慮をお願いします。

(2) 実施機関における生活保護業務の実施方針及び事業計画の策定について

生活保護業務の効果的かつ効率的な運営を行うためには、

- ① 前年度の実施方針及び事業計画の取組結果についての評価及び分析
- ② 前年度の監査指摘事項等を踏まえた実施機関が抱える問題点の分析や要因の把握
- ③ 生活保護業務全般にわたる恒常的業務の網羅的列記ではなく、早急に改善が必要な事項への重点化
- ④ 事業計画について、「誰が、何を、いつまでに行う」といった職階毎の役割分担、改善のための具体的な取組内容及び実施時期の明確化

等を盛り込んだ実施方針及び事業計画（以下「実施方針等」という。）を策定する必要がある。

監査において明らかになった課題や問題点など、実施機関における生活保護事務運営上の課題を的確に改善していくためには組織的な対応が必要であり、各実施機関において実施方針等を策定し、それに基づき組織的運営管理がなされるよう、実施方針等の内容を年度当初のヒアリング等の際に審査し、改善が必要な場合には具体的に修正を指示し再提出させるなど、管内実施機関において実効性のある実施方針等が策定されるよう指導をお願いします。

## 2 監査の実施に際しての基本的な考え方

本年度、全ての都道府県・政令指定都市に対し監査を実施したところであるが、法施行事務の適正な運営に向けた取組が着実になされている一方で、適切な援助方針の策定や的確な訪問調査活動の実施をはじめとして、生活保護制度を適正に運営するための基本的事項に多くの課題が認められている。

その要因として、実施機関全体としての組織的な業務の進行管理及びケース審査が適切に行われていないなど、組織としての査察指導体制が十分に機能していないこと、とりわけ、査察指導員による現業業務の進行管理や指導援助が不十分な事により、結果として、多くの課題が認められているところである。

また、本年度においても、職員による生活保護費の領得や事務懈怠等の不祥事案が発生しているが、組織的な事務処理等の手順や仕組み、職階毎の役割等が不明確であるなど、組織としてのチェック機能や牽制機能が働いていないといった、経理事務の事務処理に課題がある実施機関が認められているところである。

さらに、不正受給対策については、各実施機関における課税調査による稼働収入の把握や年金調査による年金収入の把握など保護の決定実施に係る業務の適正な取組に加え、平成25年の法改正（平成26年7月1日施行）において、福祉事務所の調査権限の拡大や徴収金の徴収にかかる保護費との調整などの強化を行ったことなどにより、着実な取組が図られてきているところであるが、一部の実施機関において、これらの取組が不十分である状況が認められている。

こうした状況を踏まえ、令和2年度の監査における重点事項及び監査事項は以下のとおりとする予定であるので、本庁が実施する監査により、適正な法施行事務の運営が図られるよう管内実施機関に対する指導をお願いする。

### 3 令和2年度監査の重点事項について

#### (1) 査察指導機能の充実強化について

監査におけるケース検討の結果、適切な援助方針の策定や的確な訪問調査活動の実施をはじめとして、生活保護制度の適正な運営のための基本的事項に多くの課題や問題点が認められているが、これらの課題等についての的確に改善を図っていくためには、まずは課題を認識し、現業事務に対する査察指導員による個々のケースへの指導援助の状況把握や進行管理及び現業員への的確な指導が必要である。

課題等が多い実施機関における査察指導の実施状況を確認すると、計画に沿った訪問の実施について適時適切な指導が行われていない、ケース記録の速やかな回付による適時適切なケース審査や査察指導が行われていない、現業員に対する指示事項や事後の措置状況が管理されていない等の課題が認められ、また、査察指導台帳等の整備又は活用が不十分、あるいはその活用による進行管理方法の平準化が図られていない等、査察指導機能に課題があり、これが課題や問題点の発生及び不適切な取扱いの要因となっていると思料される。

さらに、こうした状況について、査察指導員のみを担当させることなく、所長、課長等においても組織の課題を認識の上、査察指導の業務の実施状況を把握し、必要な助言・指導を行うことが必要である。

については、各実施機関における査察指導の実施状況を把握し、所長、課長等による指揮監督の状況も含め、組織的な運営管理が行われるよう指導の徹底をお願いする。

#### (2) 適切な援助方針の策定及び的確な訪問調査活動について

監査の結果、一部の実施機関において、援助方針が世帯の実態に即していない事例や個々の世帯員の課題に応じた具体的な援助方針が策定されていない事例等、適切な援助方針の策定に関して多くの課題が認められた。

また、適切な援助方針の策定と密接に係る訪問調査活動においても、年間訪問計画に沿った訪問調査活動が実施されていない事例や長期間にわたって家庭内面接が行われていない事例等、訪問調査活動の実施についても多くの課題が認められている。



これらについては、例年、国の重点事項として掲げ、国の監査においても重点的な指導を行ってきたところであるが、本年度に国が実施した監査のケース検討において依然として多くのケースで課題が認められていることから、引き続き重点的な指導が必要である。

援助方針は、「生活保護法による保護の実施要領について」（昭和38年4月1日社発第246号厚生省社会局長通知。以下「局長通知」という。）第12の4に基づき、訪問調査等によって把握した世帯員の生活状況を踏まえ、世帯主だけではなく、特に子の養育環境や進路の問題など個々の世帯員の自立に向けた課題や、世帯全体の課題を分析し、それらの課題に応じた具体的な援助方針を策定するとともに、少なくとも年に1回以上の見直しを行うよう指導をお願いします。

また、訪問調査活動は、被保護者の生活状況等を実地に把握するとともに、援助方針に基づき指導援助を行うといった、現業事務の基本であることから、被保護者の生活状況等に応じた年間訪問計画を適切に策定し、訪問計画に沿って着実に実施するよう、管内実施機関に対する指導をお願いします。

さらに、ケース検討において「援助方針の策定」と「訪問調査活動の実施」の双方について指摘している事例も多いが、援助方針に基づく具体的な指導援助を行うことが、訪問調査活動の極めて重要な目的であるとの認識に立つ必要がある。

引き続き、管内実施機関における適切な援助方針の策定及び的確な訪問調査活動の実施を確保するため、局長通知の趣旨に基づき、援助方針と訪問調査活動の一体不可分の関係性を十分に理解の上、個々の被保護世帯に対する実効性のある指導援助が行われるよう、管内実施機関に対する指導の徹底をお願いします。

### （3）適正な保護の決定実施について

#### ア 扶助費算定誤り等の防止について

監査の結果、一部の実施機関において、加算の認定誤りや就労収入の認定漏れ等、実施機関の瑕疵と想定される事由により、法第63条を適用している事例が認められている。

こうした事例の発生を未然に防止するためには、組織的な事務処理体制の確立及び進行管理の徹底が必要不可欠であり、これにより適正な保護決定を行うことにより、適用事例を縮減していくことが、実施機関の事務負担の軽減につながるものでもある。

については、保護決定に係る算定誤りや認定漏れ等の不適切な取扱いが発生した要因を分析の上、ケース審査の徹底や進行管理、さらには定期的な内部点検の実施等により、適正な保護決定が行われる組織体制が構築されているか等、管内実施機関の状況を把握の上、的確な指導をお願いする。

#### イ 経理事務の取扱いについて

監査の結果、一部の実施機関において、現業員等の事務の範囲、保護金品の支給及び返還金・徴収金の管理、現業員等の現金の取扱い手順や決裁権者等を明確にした事務処理規程等が整備されていない、あるいは事務処理規程どおり運用されていない等、経理事務に係る不正事案の未然防止の観点から、現行の事務処理に脆弱性があることが認められている。

事故・不正事案発生防止の観点からも、これらの点について管内実施機関における取扱いの実態を踏まえた具体的な指導が重要であることを十分に認識の上、「現業員等による生活保護費の詐取等の不正防止等について」（平成21年3月9日社援保発第0309001号厚生労働省社会・援護局保護課長通知）を踏まえ、保護担当と経理担当の事務の分離や決裁権者等について規程どおり運用されているか、内部牽制が有効に機能しているか等を点検するとともに、生活保護費の支給方法について、窓口払いとしている理由の精査を行い、窓口払いの解消に向けた取組がなされているか等、管内実施機関に対する指導の徹底をお願いする。

#### ウ 適時適切な保護の変更決定に係る進行管理について

保護の変更決定に係る進行管理については、平成29年度より、国の重点事項として掲げ、重点的な指導を行ってきたところであるが、本年度に国が実施した監査において、一時扶助に係る申請書について保護申請書受理簿等が整備されていない、または活用が不十分である等、多くの実施機関において、申請処理に係る組織的な管理体制に脆弱性があることが認められている。

保護の変更決定漏れや決定遅延等について、現業員等による事務懈怠事案の発生防止の観点からも、保護申請書受理簿等の整備や申請書類の保管方法のルール化、申請処理に係る職階毎の役割や責任の明確化による重層的なチェック体制の構築等について指導をお願いします。

#### (4) 不正受給等の防止に向けた取組について

##### ア 適切な収入の把握について

監査の結果、一部の実施機関において、資産申告書や収入申告書の定期的な徴取がなされていない事例が認められている。

適切な保護の決定実施を行うためには、被保護世帯に対し、収入申告の必要性や届出義務について周知する必要があるとともに、資産・収入等の状況を把握する必要があるので、「生活保護行政を適正に運営するための手引きについて」（平成18年3月30日社援保発第0330001号厚生労働省社会・援護局保護課長通知）Iの2及び3を踏まえ、届出義務の遵守及び収入申告等の徴取が確実に行われるよう、指導の徹底をお願いします。

##### イ 課税調査の徹底について

課税調査については、本庁による管内実施機関に対する指導の結果、多くの実施機関において適正な調査の実施が図られてきているところであるが、監査の結果、一部の実施機関において、課税収入額と収入申告額の突合作業及び組織的な確認が行われていない状況が認められている。

また、調査の結果、継続した収入があることが判明した場合に、当該収入について8月分の保護費に反映できていない事例及び法第78条の適用処理が当該年度内に行われていない事例が認められている。

課税調査は、法第78条適用事例の発見契機の多くを占めているなど、不正受給の防止及び早期発見のために有効なものであるので、局長通知第12の3及び「課税調査の徹底及び早期実施について」（平成20年10月6日社援保発第1006001号厚生労働省社会・援護局保護課長通知）を踏まえ、確実に実施するよう、指導の徹底をお願いします。

## 4 生活保護法施行事務監査事項について

監査の実施に当たっては、「生活保護法施行事務監査の実施について」（平成12年10月25日社援第2393号厚生省社会・援護局長通知）の別紙「生活保護法施行事務監査事項」に基づき適切に実施するようお願いする。

なお、当該監査事項については、局長通知の改正等を踏まえ改正することとしており、詳細については、追ってお示しするので了知されたい。

また、令和2年度監査の実施に当たって、前記重点事項に加え、特に留意すべき事項については、次のとおりである。

### (1) 保護の相談・申請・廃止について

#### ア 面接相談について

監査において、保護申請に至らなかった面接記録票を抽出して検討しているところであるが、一部の実施機関においては、記録の内容が乏しいなどのため、相談者の申請意思や急迫状況、相談者からの相談内容やそれに対する助言内容、申請に至らなかった経緯等が不明確であるなど、適切な面接相談が実施されたかの確認ができない状況が認められているところである。

面接記録票への相談内容等の記録は、面接相談が適切に実施されたかなど、事後の検証に必要であることから、適切な面接相談を行うとともに、その内容について確実に記録するよう指導をお願いする。

また、一部の実施機関において、面接相談の際に活用する「保護のしおり」の内容について、申請権の侵害につながる恐れのある表現が含まれているものが認められている。

本庁の監査においては、面接相談の内容検討のみならず、面接相談の具体的な手順や申請に至るまでの役割分担を確認するとともに、相談者へ交付ないし提示する書面等を含めた関係書類を十分確認して問題点を把握の上、具体的な指導をお願いする。

#### イ 保護申請の取下げに係る適切な取扱いについて

監査の結果、一部の実施機関において、預貯金の保有があり、保護に該当しないことが判明した場合に、却下処分をするのではなく、「保護申請の取下げ」により処理している事例等の不適切な取扱いが認められている。

については、要保護者の審査請求権の権利保護の観点から、保護の申請に対する調査の結果等により、保護に該当しないことが判明した場合に、適正に却下処分を決定の上、申請者に通知しているか等について、指導の徹底をお願いする。

#### ウ 「辞退届」の提出による廃止について

監査の結果、一部の実施機関において、「辞退届」の提出による保護廃止の取扱いについて、転出等により実施責任がなくなることをもって保護廃止となるケースについて「辞退届」の提出による廃止としている事例、収入の増加等により要否判定を行えば保護「否」となるにもかかわらず「辞退届」の提出により保護廃止している事例等の不適切な取扱いが認められた。

また、廃止後の自立の目途を具体的に聴取していない事例、ケース診断会議に諮るなど組織的な検討が十分に行われていない事例も認められているところである。

については、「生活保護法による保護の実施要領の取扱いについて」（昭和38年4月1日社保第34号厚生省社会局保護課長通知。以下「課長通知」という。）第10の12-3に基づき、不要な「辞退届」の提出を根拠とした廃止をしていないか、提出された「辞退届」が本人の任意かつ真摯な意思に基づくものであり、かつ、最低生活費に満たない部分をどう工面するのか等、本人から自立の目途を聴取しているか等について、ケース診断会議に諮るなど組織的に検討するよう指導の徹底をお願いする。

#### エ 指導指示違反による廃止について

監査の結果、一部の実施機関において、指導指示違反による保護廃止の取扱いについて、ケース診断会議に諮るなど組織的な検討が十分に行われていない事例、法第27条による指導指示を行うに当たり、口頭による指導指示を経ることなく文書による指導指示を実施している事例、法第62条第4項に基づく弁明の機会を付与することなく保護廃止している事例等、不適切な取扱いが認められている。

については、法第27条に基づく指導指示の内容及び法第62条第3項に基づく保護

の変更、停止又は廃止に至る過程が適切であるか、組織的な検討がなされているか等について、指導の徹底をお願いします。

オ 生活困窮者自立支援制度との連携について

生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業の相談者について、法第6条第2項に規定する要保護者となるおそれが高いと判断される場合には、福祉事務所と連携を図りながら適切に生活保護につなぐこととなっているとともに、法第26条の規定により保護を廃止する場合で、廃止される者が生活困窮者に該当する場合は、生活困窮者自立支援法に基づく事業や給付金についての情報提供や助言等適切な措置を講じるなど、努力義務規定により生活保護制度と生活困窮者自立支援制度の連携を図ることとしている。

については、生活困窮者自立支制度と生活保護制度の相互間の連携が図られているか等に留意し、適切な指導をお願いします。

(2) 扶養能力調査の徹底について

監査におけるケース検討の結果、一部の実施機関において、要保護者からの申告や戸籍謄本などにより把握した扶養義務者について、その職業、収入等につき要保護者その他により聴取する等の方法により、扶養の可能性が調査されていない事例、重点的扶養能力調査対象者であるかの判断が不十分な事例、重点的扶養能力調査対象者について、実地調査又は文書照会未回答者に対する再照会が行われていない事例等、扶養能力調査の取扱いに係る課題が認められている。

については、局長通知第5及び課長通知第5の1から5までに基づき、扶養能力調査を徹底するよう指導をお願いします。

(3) 稼働能力の適切な把握及び就労指導の徹底について

監査におけるケース検討の結果、病状を主治医訪問及び嘱託医協議により把握し、就労指導の可否を検討する必要がある事例等、稼働能力の適切な把握及び就労指導の取扱いに課題が認められている。

病状把握は、その世帯の日常生活上の様々な指導援助を行う上で重要であるとともに、就労指導の可否等を決定する上で必要不可欠なものである。

については、(局)第4に基づき、稼働能力の適切な把握及び就労指導を徹底するよ

う指導をお願いする。

#### (4) 実施体制の整備について

適正な保護の決定実施や被保護世帯に対する指導援助を的確に行い、生活保護制度の適正な運営を確保するためには、現業員の配置等、実施体制の整備が必要であるが、監査の結果、多くの実施機関において、社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）第 16 条に定める標準数に対して現業員の不足が生じているところであり、また、査察指導体制の整備が必要な状況も認められている。

監査の結果明らかになる制度運営上の課題や問題点について、的確に改善を図っていくためには、実施体制の整備が必要であるという視点に立ち、管内実施機関に対する指導をお願いする。

また、社会福祉法第 15 条第 6 項において、現業員等は社会福祉主事でなければならないと規定されているため、社会福祉主事有資格者を配置するとともに、現に社会福祉主事資格を有しない者については、社会福祉主事資格認定通信課程を受講する等により同資格を取得するよう指導しているところであるが、一部の実施機関において、有資格者の配置がなされていない状況が認められているので、当該実施機関に対する指導の徹底をお願いする。

なお、厚生労働省が社会福祉法人全国社会福祉協議会中央福祉学院（以下「中央福祉学院」という。）に委託している社会福祉主事資格認定通信課程（公務員課程）については、以下のとおり申込書提出期限を定めたので、管内実施機関への周知徹底をお願いする。なお、当該期限を過ぎても追加の申込みの調整も可能としているところであるので、積極的な受講をお願いする。（別添通知（P14・15）参照）

#### ※申込書提出期限

- ・受講者から都道府県等社会福祉研修主管部（局）

令和元年度                      令和 2 年度

4 月 9 日（火） → 4 月 9 日（木）

- ・都道府県等社会福祉研修主管部（局）から中央福祉学院

令和元年度                      令和 2 年度

4 月 15 日（月） → 4 月 15 日（水）

## 5 不正受給事案や不正等事案に係る報告の徹底について

被保護者による不正受給事案や現業員等による不正等事案が発生した場合については、「不正受給事案や現業員等による不正等が発生した際における速やかな報告等について」（平成24年10月23日社援自発1023第1号厚生労働省社会・援護局保護課自立推進・指導監査室長通知）により速やかな報告をお願いしているところであるが、本年度においても、報道などにより当省が把握し、照会して初めて当省へ状況の説明がされるなど、報告が遅延する事案があったところである。

この報告は、国と本庁とが、実施機関等における各種事案について迅速に情報共有を行うことで、当該事案に係る速やかな是正措置及び再発防止に向けた取組につなげるためのものであるので、改めて通知の趣旨を徹底し、速やかな報告をお願いします。（別添資料（P16～19）参照）



《役所名》社会福祉研修主管部(局)長 殿

社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
中央福祉学院  
学 監 笹尾 勝  
(公印略)

令和2年度 社会福祉主事資格認定通信課程(公務員課程)  
受講案内の送付と受講希望者のとりまとめについて(依頼)

本学院の研修事業につきましては、日頃より特段のご高配を賜り深謝申しあげます。

さて、厚生労働省の委託を受け、令和2年度標記通信課程を下記および別添受講案内のとおり実施することとなりました。

つきましては、諸事ご多忙の折、誠に恐縮ですが、周知用「受講案内」を別便にて送付いたしますので、貴県(市)内の福祉事務所、児童・婦人・更生等の各相談所、市・区役所、町村役場および社会福祉施設(公立公営)など関係先への周知と受講希望者のとりまとめについてご協力賜りますようお願いいたします。

なお、標記通信課程を含め、令和2年度における厚生労働省委託研修の実施につきましては、別途厚生労働省から通知されますことを申し添えます。

記

1. 受講対象

- 都道府県又は市区町村の職員で、社会福祉行政および社会福祉事業に従事している者。
- 社会福祉協議会や社会福祉事業団などの民間団体・施設等に出向している公務員および公立福祉施設職員(一部事務組合職員を含む)も対象とします。
- 国立施設等の職員(国家公務員)につきましては、本学院において直接受け付けいたします。

2. 受講定員

2,000名

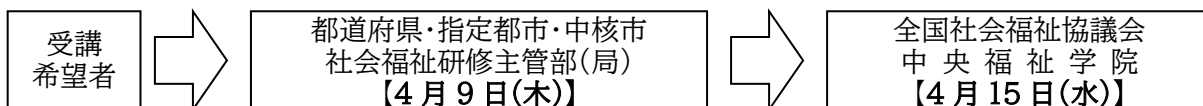
3. 受講期間

令和2年4月1日より1年間

4. 受講料

70,200円 \*受講料は受講決定時に送付いたします所定の用紙によりお支払いいただきます。

## 5. 申込書提出期限



- 受講開始日(6月1日)までに選考結果および教材発送等の手続きを完了するために、上記提出期限を厳守していただきますようお願いいたします。
- なお、申込書提出期限後に人事異動等の理由により追加の受講希望があった場合は、当学院にご一報ください。提出期限について調整させていただきます。この場合は速やかに追加申込書を提出くださいますようお願いいたします。

## 6. 受講案内の送付部数

《主事》部 (別便で2月20日(予定)に発送いたします)

- 原則として社会福祉関係行政機関数、市区町村数、公立施設数等をもとに算定しています。
- 受講案内および申込書のPDFデータは、本学院ホームページからダウンロードすることができます。会員専用ページ「社会福祉研修主管部(局)専用ページ」に掲載をしておりますのでご利用ください(要パスワード)。

ホームページURL	<a href="http://www.gakuin.gr.jp/member/course7288.html">http://www.gakuin.gr.jp/member/course7288.html</a>
パスワード	kenshu294

## 7. 「受講希望者連名簿(別添様式1)」の作成

- (1) 受講申込書のとりまとめに際し、別添様式1のとおり受講希望者連名簿をご作成ください。  
入力用の受講希望者連名簿様式データは、受講案内と同様に上記の本学院会員専用ページに掲載をしております。
- (2) 受講希望者連名簿は下記のとおりお願いいたします。
  - 勤務先別に連記してください。
  - 連名簿の記載順位は、選考にあたっての優先順位ではありません。
- (3) 受講申込書のとりまとめにあたり、以下の点にご留意ください。
  - 受講申込書の記入漏れ、記載事項の誤りがないかご確認をお願いいたします。
  - 記載内容に不備がみられる場合は申し込みの受付はできません。
  - 都道府県市を經由せず、受講希望者より本学院に申込書を直接送付された場合の申し込みは無効となります。
  - 受講申込者がいない場合、受講希望者連名簿の作成は不要ですが、行き違いを防ぐため、お手数でもご一報くださいますようお願いいたします。

## 8. その他

本学院ホームページにおいて、主管課連絡先を掲載しております。変更が生じた場合は恐れ入りますがメール(z-gakuin@shakyo.or.jp)またはFAXにてご連絡ください。

掲載内容	<部署名> 《部署名》
	<電話番号> 《電話》

## 9. 本件に関する連絡・お問い合わせ先

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 中央福祉学院(担当:小松、伊藤)

〒240-0197 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-44

TEL 046-858-1355/FAX 046-858-1356 URL <http://www.gakuin.gr.jp/>



社援自発1023第1号

平成24年10月23日

都道府県  
各 指定都市 民生主管部(局)長  
中核市

厚生労働省社会・援護局保護課

自立推進・指導監査室



不正受給事案や現業員等による不正等が  
発生した際における速やかな報告等について

生活保護の適正実施につきましては、平素より格別のご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、被保護者による不正受給や現業員等による生活保護費の詐取等の不正の未然防止等を図り、生活保護の適正実施を推進する観点から、それぞれの該当事案発生時における厚生労働省への速やかな報告等について、関連通知等においてお願いしているところです。

しかしながら、依然として、これら通知の趣旨が徹底されず、事案発生(確認)から厚生労働省への報告までに著しい長期間を要した上、その間、該当実施機関における実態の解明・把握や、当該自治体内における再発防止策の検討等に関して極めて不十分な対応しか行われていなかった事案などが見られています。

悪質な不正受給事案や現業員等による不正等は、生活保護行政に対する国民の信頼を根底から揺るがすものであり、万一こうした事案が発生した場合には、早急に、保護の実施機関、都道府県・指定都市本庁と厚生労働省とが情報を共有の上、迅速かつ適切な対応を図る必要があります。特に、現業員等による詐取、領得、事務け怠等については、早急に、該当実施機関において、①関係する被保護世帯に対する適正な保護の決定実施を確保して正常化を図り、②発生要因を含む事案の全貌を明らかにして、③実効性ある再発防止策を構築し、生活保護行政に対する国民の信頼を確保する必要があります。

については、次の点を踏まえ、不正受給事案や現業員等による不正等事案が発生した際における、厚生労働省への迅速な報告を確実に行うよう、管内実施機関への徹底をお願いします。

## 記

### 1 被保護者による不正受給事案について

告訴・告発を行った事案や、刑事事件及び新聞、議会等で問題になることが予想される等の不正受給事件については、「生活保護の適正実施の推進について」（昭和56年11月17日付社保第123号厚生省社会局保護・監査指導課長連名通知）の2の（4）、（5）に基づき、その概要、対応方針等について速やかに情報提供するとともに、必要に応じて技術的助言を求めること。

### 2 現業員等による不正等事案について

現業員等による詐取等の不正事案が生じた場合は、「現業員等による生活保護費の詐取等の不正防止等について」（平成21年3月9日付社援保発第0309001号厚生労働省社会・援護局保護課長通知）の2の（1）、（2）の別添1及び別添2により速やかに報告すること。なお、現業員等による事務け怠事案については、懲戒処分を受けたものについて報告を求めているところであるが、今後にあつては、自治体人事当局が懲戒処分を検討する対象とした事案や、保護費の過大・過小支給の判明に伴って国庫負担金の再精算を要する可能性が高い事案、都道府県・指定都市本庁が特別監査の対象とした事案、報道や議会等で問題となることが予想される事案などについても、当該事案の発生が確認された段階で、事案の概要、対応方針等について速やかに情報提供いただくとともに、必要に応じて技術的助言を求めるとされたい。（懲戒処分を受けたものに係る報告は従来のとおり。）

(別添1)

生活保護に係る不正事案報告書(1)

福祉事務所名				作成年月日：平成 年 月 日
不正行為者氏名		官職名		
不正行為者の所属部署名		在職期間	平成 年 月 日～ 年 月 日	
不正行為金額	円	不正行為期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日	
不正行為に係る事実の詳細				
不正行為の発生原因 (具体的、詳細に)				
都道府県・指定都市(本庁)への報告年月日	平成 年 月 日			

上記記入欄は適宜変更して、具体的かつ詳細に記述すること。

(別添2)

生活保護に係る不正事案報告書(2)

福祉事務所名				作成年月日：平成 年 月 日
不正行為者氏名		官職名		
不正行為者の所属部署名		在職期間	平成 年 月 日～ 年 月 日	
不正行為金額	円	不正行為期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日	
不正行為に係る事実の詳細				
不正行為の発生原因 (具体的、詳細に)				
都道府県・指定都市(本庁)への報告年月日：平成 年 月 日				
不正行為発覚後の処置(損害額の確定方法等)				
不正行為金額に係る国庫負担金の精算処理状況(予定を含む)				
実施機関が講じた再発防止策の概要(具体的、詳細に)				
懲戒処分等、刑事・民事訴訟について				
懲戒処分等	有・無	処分内容		
刑事訴訟	有・無	訴訟内容		
民事訴訟	有・無	訴訟内容		
備 考				

上記記入欄は適宜変更して、具体的かつ詳細に記述すること。

## 第2 保護施設に対する指導監査について

保護施設の適切な運営実施の推進と入所者及び利用者（以下「入所者」という。）の処遇の確保のため、保護施設に対する都道府県、指定都市及び中核市（以下「都道府県等」という。）が行う指導監査の果たす役割は、極めて重要である。

平成30年度の指導監査結果の指摘事項内訳を見ると、入所者処遇に関して、入所者の個別処遇の策定が不十分、入所者預り金の管理及び取扱いが不適切であること、職員処遇に関して、給与規定の不備又は実態との乖離、勤務体制の整備が不十分、研修会等への参加が低調であること、運営管理に関して、会計事務処理が不適正、災害事故防止対策が不十分などの問題が見受けられたところである。

こうした状況を踏まえ、保護施設に対する指導監査の実施に当たっては、次の点に留意の上、「生活保護法保護施設指導監査要綱」（平成12年10月25日社援第2395号厚生省社会・援護局長通知）に基づき実施されたい。

### 1 入所者の自立支援に重点をおいた指導監査の実施について

入所者に対する適切な処遇が行われるよう、基準が確保されていることはもとより、

- ① 入所者の意向を尊重した上で適切な処遇計画が策定されているか
- ② 居宅生活への移行や他法の専門的施設での受け入れについて検討されているか
- ③ 実施機関や家族との連携が図られているか
- ④ 処遇計画について適宜必要な見直しが行われているか
- ⑤ 入所者への虐待の防止について適切に対応が行われているか

に重点をおいた指導監査を実施することにより、入所者の自立支援に向けた取組が一層推進されるよう指導をお願いします。

### 2 保護施設の運営に係る適正実施の確保について

#### (1) 保護施設の適正な運営の確保

入所者処遇を図るための必要な職員の確保のほか、適正な会計及び契約事務の処理、内部牽制体制の確立、衛生管理や感染症対策の徹底等について指導をお願いします。

また、入所者からの預り金を管理している保護施設については、事故・不正事案発生防止の観点からその適切な管理についても指導をお願いします。

なお、職員の処遇については、有用な人材の確保及びその定着化を図るため、適切な給与水準の確保、労働時間の短縮等労働条件の改善、研修等職員の資質向上、

福利厚生の実態等について指導をお願いします。

## (2) 防災対策の強化について

令和元年度は関東甲信地方や東北地方を中心に記録的な大雨により甚大な被害があった台風19号などをはじめ、全国的に暴風雨等による浸水被害など大きな自然災害が発生したところである。

社会・援護局関係主管課長会議（以下「主管課長会議」という。）の保護課及び福祉基盤課の資料に記載されているとおり、社会福祉施設等に関する水害・土砂災害・津波に関する対策や保護施設における非常災害対策計画の策定及び避難訓練の実施に関する周知・徹底をお願いしているところである。

こうした現状を踏まえ、多くの要配慮者が入所する保護施設における日頃からの防災対策への取組は、人的被害の未然防止の観点からも非常に重要であることから、都道府県等においては、所管する保護施設の指導監査を実施するにあたり、防災関係部局、管内市町村及び消防機関などと連携し、保護施設に関する防災対策が適切かつ確実に行われるよう、指導・助言等を行って頂くようお願いする。

## (3) 感染症の予防対策について

これまでも、インフルエンザ、新型インフルエンザやノロウイルス等の感染症に関する社会福祉施設での予防対策に関し、適切な対応をお願いしているところである。

また、今般の新型コロナウイルスへの対応に関しても、社会福祉施設等の職員が正しい認識も持つとともに、風邪やインフルエンザ同様に、まずはマスク着用を含む咳エチケットや手洗い、アルコール消毒等により、感染経路を絶つことが重要である。

感染症予防に関する通知及びマニュアルを基に、保護施設で適切な感染症予防対策が確実に行われるよう、指導・助言等を行って頂くようお願いする。

なお、新型コロナウイルスに関しては、主管課長会議の保護課及び福祉基盤課の資料に記載されているとおり、厚生労働省のホームページにおいて、新型コロナウイルスに関する Q&A をはじめ、新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安、啓発資料、厚生労働省から発出した通知などが随時更新、掲載されているので、こちらで最新の情報を入手するよう留意されたい。

(新型コロナウイルス感染症について)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)



### 3 事件・事故に係る報告の徹底について

保護施設において、職員による入所者への虐待等の問題が確認された場合や職員による不正が確認された場合など事件・事故が発生した場合には、速やかにこれを都道府県等に報告するよう管内保護施設に対して指導をお願いする。

また、報告を受けた都道府県等は、当該事案の概要、対応方針等を速やかに国へ報告することとし、報告に際しては、その時点で判明している事実関係や今後の見込み等について速報されるとともに、詳細な内容が判明次第、逐次具体的な報告をお願いする。

## 第3 令和2年度生活保護指導監査委託費等について

### 1 生活保護指導監査委託費について

生活保護指導監査委託費については、本庁の指導監査体制を整備し、管内実施機関に対する指導監査を通じて適正な保護の実施を目的として、都道府県及び政令指定都市が設置した生活保護指導職員に係る経費を補助している。

また、国庫補助対象となる生活保護指導職員の定員については、「国の行政機関の機構・定員管理に関する方針」（平成26年7月25日閣議決定）を踏まえ、計画的な見直し（令和2年度～6年度/29人の定員合理化）を行う予定である。

令和2年度においては、全国で6人の定員合理化を予定しているので、格段の御理解と御協力をお願いする。

	令和元年度 当初予算額	令和2年度 予算額（案）	備 考
生活保護指導監査委託費	1,973,782 千円	1,937,504 千円	・定員合理化計画 (R元')289人 → (R2')283人

### 2 都道府県等による生活保護業務支援事業について

近年の生活保護受給世帯の増加や、様々な課題を抱える世帯に対する適切な支援の実施など、ケースワーカー1人当たりの業務負担は大きい状況にある。また、職員の増配置等により、生活保護行政の経験が無いケースワーカー等が配属される場合もあるなど、福祉事務所における保護の実施水準及び職員の質の確保は喫緊の課題となっている。

こうした課題に鑑み、都道府県等が広域的な立場から管内福祉事務所の生活保護関

係職員に対して、指導及び監査とは別に保護の実施水準の向上や人材育成の一翼を担う事業として「都道府県等による生活保護業務支援事業」を平成 30 年度に創設したところであり、引き続き、都道府県等においては、本事業を積極的に活用し、管内福祉事務所の保護の実施水準及び職員の質の向上に努められたい。

# 連 絡 事 項

## 1 国が実施する監査計画について

令和2年度においても、全ての都道府県及び政令指定都市に対して監査を実施することとしている。

具体的な監査計画については、追って示すこととするが、基本的な考え方は以下のとおりである。

- (1) 原則として、都道府県・政令指定都市本庁及び管内実施機関を選定して監査を実施する。(一般監査)
- (2) 一般監査においては、従来通りの5日間を基本とするが、対象実施機関の規模等を勘案して期間を短縮又は延長することがある。
- (3) 一部の都道府県・政令指定都市については、本庁のみの監査を実施する。
- (4) 本年度の監査の状況を踏まえ、一部の都道府県・政令指定都市について、一般監査だけでなく、事前のヒアリングや確認監査の実施等により、各自治体の課題の解消に向けた重点的な指導を行う。

## 2 監査対象実施機関の選定について

一般監査における実施機関の選定に当たっては、各本庁と協議の上決定することとしているが、選定に当たっての基本的な考え方は以下のとおりである。

- ・ 直近又は過去の監査等において課題が多い実施機関
- ・ 複数年にわたり同一の課題や問題点が改善されない実施機関
- ・ 管内において基幹的位置付けにある実施機関
- ・ 管内の保護動向に及ぼす影響が大きい実施機関

なお、対象実施機関の選定のための資料の提出について、追って連絡するので了知されたい

## 3 令和2年度監査の実施に当たってのヒアリングについて

本年度の国の監査結果等を踏まえ、一部の本庁に対して、下記4の会議日程の前後(4月21日(火)～24日(金)(予定)のうち会議開催期間中を除く。)において、令和元年度監査の是正改善状況の確認、令和2年度監査方針等について、ヒアリングを実施する予定である。

対象とする本庁については、追って連絡する。また、具体的な日程については、当該連絡の際に協議・調整するので了知されたい。

#### 4 生活保護指導職員会議について

国及び本庁の監査を効果的に実施するため、監査の重点事項、監査手法、過去の監査における課題・問題点及びその改善方策等について、国の監査官等と本庁の監査担当者との認識を一にすることを目的として、下記により会議を開催する予定である。

各本庁においては、監査班長及び監査担当職員等、監査の中核を担っている職員の派遣をお願いします。

##### ○生活保護法施行事務監査に係る生活保護指導職員会議

開催日： 令和2年4月22日（水）・23日（木）（予定）

開催場所： 東京都内

内容案： 指導監査の意義・目的

指導監査の実施について（指導監査のPDCA）

令和元年度監査で認められた課題や問題点の内容と対応

監査等の実施に係る意見交換 等

#### 5 査察指導機能の充実強化を目的とした研修会等の開催について

実施機関において査察指導を担う職員の中には生活保護業務の経験がない職員もいることから、研修等の充実に努めることが必要である。

令和2年度においても、査察指導機能の充実強化に資することを目的として、各実施機関の査察指導員等を対象として、研修会等の開催を予定しているので、関係職員の派遣について格段の配慮をお願いします。

なお、本庁においても、国の実施する研修資料等を活用するなど、研修等の充実に努められたい。

##### (1) 新任査察指導員研修会

目的： 保護の実施機関の新任査察指導員等を対象に、生活保護の基礎知識と査察指導員としての業務の基本についての講義や参加者相互の意見交換により、業務遂行能力の向上を目指す。

対象者： 実施機関の現業事務経験のない生活保護査察指導員等

開催時期： 令和2年5月13日（水）～15日（金）（予定）

開催場所： 東京都内

内容案： 生活保護制度の概要

組織における査察指導員の役割

生活保護におけるスーパービジョン（技術論）

査察指導業務に係る事例報告

グループワーク・意見交換 等

(2) 全国生活保護査察指導に関する研究協議会

目 的： 生活保護をめぐる状況や問題を踏まえて、求められる査察指導機能や組織的運営管理について研究協議及び意見交換等を行い、生活保護査察指導員等の職務能力の向上を図り、もって生活保護制度の適正な実施に資することを目的とする。

対 象 者： 原則、次に該当する者で都道府県・政令指定都市が推薦する者  
生活保護の査察指導員及び担当課長等であって、2年以上の経験年数を有するとともに査察指導に関して中心的役割を担う者

開催時期： 調整中

開催場所： 調整中

内 容 案： 査察指導の重要性

生活保護におけるスーパービジョン（技術論）

事例報告

研究協議（特定事項を示し、研究協議を実施）